

しずく 議会だより

●平成20年4月24日発行

発行／栗石町議会

〒020-0595 岩手県岩手郡栗石町刈田5番地1

電話 019-692-2111 ファックス 019-692-2828

ホームページアドレス <http://www.town.shizukuishiiwate.jp/>

編集／議会広報編集特別委員会

○今号の主な内容

3月定例議会のあらまし…2～3

予算特別委員会…4～8

常任委員会の活動報告…9

町の考えをたずね

一般質問 12議員が登壇…10～21

皆さんからのご意見／ふるさとへの便り (31) …22～23

No.65

3月定例会のあらまし



中屋敷十町長が20年度の施政方針を演説した3月定例会

予算総額137億611万円で 新年度事業がスタート

平成20年第1回定例会は、3月4日から19日までの16日間の会期で行われました。

町長の施政方針演説、教育委員長の教育方針演説があり、所信の一端と諸施策の概要が述べられました。

一般質問には、12名が登壇し3日間にわたり、町当局の考えをたしました。

本定例会では、平成20年度の各会計予算が12件、条例に係る案件が17件、補正予算に係る案件が12件、指定管理者の指定に係る案件が3件、議会の議決を要する協議に係る案件が2件、報告案件が1件、請願3件、議員発議2件がありました。

これらの案件は、慎重な審議の上、原案どおり可決しました。

■条例（主なもの）

○雫石町ふるさと文化振興基金条例の制定

現行の「町ふるさと文化基金」を廃止し、財政運営に弾力性を持たせることを狙いとし、これまでの基金約4億6,000万円のうち、4億3,000万円を財政調整基金に繰り入れ、新基金3,000万円で事業展開するもの（賛成多数で可決）

○雫石町後期高齢者医療に関する条例の制定

後期高齢者医療制度が創設されることに伴う必要な事項を定めた条例を制定（賛成多数で可決）

○雫石町コミュニティ消防センター条例の制定

これまでの八区屯所を新築したことに伴い、コミュニティ消防センターとして必要な事項を制定（全会一致で可決）

■指定管理者

○公の施設の指定管理者の指定に関し議決を求めること

七ツ森保育所を平成20年4月1日から4年間、社会福祉法人のぞみ会（菊池敏夫理事長）に指定管理者として指定するための議決。このほか、コテージむら管理センターと雫石町体験農園も同期間の指定管理者として、特定非営利活動法人しずくいし・いきいき暮らしネットワーク（西山甲士良理事長）に管理を委託（全会一致で可決）

■補正予算

○一般会計など12会計を補正

平成19年度の事業が確定したことによる減額や、財政調整基金などへの積立金、特別会計への繰出金の計上などに伴うもの（全会一致9件、賛成多数3件で可決）

■請 願

○「飼料・資材高騰による酪農経営危機に対する支援を求める請願」が本定例会に提出され、産業建設常任委員会の報告のとおり、全会一致で採択しました。

請願者／新岩手農業協同組合南部地域酪農生産部会 部長 松原 久美

請願の趣旨／飼料価格と原油価格の高騰が酪農経営に深刻な影響を及ぼしており、この現状を国の関係機関に意見書として送付してほしいこと。

○国に意見書を提出しました

請願採択を受け、「原油価格等の高騰に対する農業経営安定の確保を求める意見書」が議員発議され、全会一致で可決しました。

提出先／衆参両議長、内閣総理大臣、財務大臣、農林水産大臣

○継続審査となっていた「町道の改良整備についての請願」（請願者 藤本宗郎さん・石亀勇さん）と「米価の安定対策を求める請願」（請願者 雫石町農民組合代表 太田勲）が産業建設常任委員会の報告のとおり、いずれも全会一致で採択しました。

○国に意見書を提出しました

請願採択を受け、「米価の安定対策を求める意見書」が議員発議され、全会一致で可決しました。

提出先／衆参両議長、内閣総理大臣、農林水産大臣

平成20年度各会計当初予算の成立までの推移

予算特別委員会の設置 委員長 横欠君夫 副委員長 上野三四二 12会計 予算委員会 付託 委員会 審査報告	会計名	予算額	対前年比	可決※1
	一般会計	78億5,000万円	△0.5%	○
	国民健康保険	19億4,092万円	△2.9%	○
	後期高齢者医療	1億2,540万円	皆増	○
	老人保健	2億1,409万円	△90.0%	○
	御明神財産区	646万円	33.4%	○
	下水道事業	9億7,002万円	8.6%	◎
	農業集落排水	1億7,035万円	2.9%	◎
	簡易水道事業	4,268万円	71.0%	◎
	介護保険	9億7,815万円	4.9%	○
	介護サービス	756万円	16.3%	◎
	雫石診療所	8億2万円	51.7%	◎
	水道事業	6億46万円	31.8%	◎
	総合計	137億611万円	△8.9%	
成立 討論 採決※2 会計予算は 原案のとおり				
予算特別委員会開催日 3月13日、14日、17日、18日				

※1 ◎全会一致 ○賛成多数

※2 本会議での可決状況

町当局に7項目の意見を提言

意見

1

町発注工事の入札結果は、住民の関心が高いので、入札終了後、速やかに、町のホームページに入札執行状況を掲載して

もらいたい。

意見

2

町の財産管理の一環として、寄贈いただいた絵画など決算書等の財産一覧表に載っていない帳簿外の資産の整理と評価を

するべきではないか。

意見

3

老人憩の家の利用時間は、現在、午後4時までとなっているが、夕方まで働いてきた後でも入浴できるようにし

てもらいたいとの要望が強いので、午後7時まで延ばすようにしてもらいたい。

意見

4

当町のくみ取り業者は、くみ取り量にかかわらず、常に満杯分(タンクの容量分)の料金を請求しているとの苦情があるので、適正な料金請求をするように業者を指導してもらいたい。

意見

5

合併浄化槽の清掃料を、昨年から技術料1万円を上乗せした金額にされ、住民は困っている。合併浄化槽設置の補助を行っているのだから、業者を指導してもらいたい。

意見

6

除雪は今回初めてNPO委託された。除雪の問題は難しいが、対応をよくするためと厳しい営農事情から、ガソリン代に上乗せをするなどして、農家の大型機械を有効活用し、地域を把握した除雪ボランティアを強化してほしい。

意見

7

消防団員の高齢化や、日中不在対策、充足率向上のため、事業所へのさらなる協力の働きかけや、屯所近辺の協力団員制などの検討を。また、本部隊員にも有効な現場活動をしてほしい。

平成20年度の一般会計、特別会計および企業会計予算を議決することに対する討論が行われました。

反対

伊藤哲夫議員

経済が低迷する中、町税は本当に厳しい状況にある。また、農業問題や中心市街地活性化、雇用問題などの課題も多い。中でも、後期高齢者医療制度による老人福祉は、到底納得できるものではない。これらを指摘し、反対する。

討論

賛成

猿子恵久議員

厳しい財政状況の中、人件費、物件費等は極力節減に努力している。町当局が十分に町民の意向を把握し執行することが大事であり、本予算は、創意工夫を凝らしてつくったものであり、町民福祉につながる。よって適正と認め、賛成する。

予算を徹底チェック

平成20年度各種予算審査の中で取り上げられた主な質疑内容。

歳入・総務

問 雫石町農業青年婦人研修資金助成基金の管理運営状況はどうなっているのか。

答 新しいわて農業協同組合南部営農経済センターで管理しているが、平成11年度以降、この基金による事業は行われていないので、そのあり方等について、早急にセンターと協議をする。また、町の出資金（1,000万円）の取り扱いについても協議をしていく。

問 現在、使われていない道路（赤線）は、隣接する土地所有者に買ってもらうとか、勝手に使っている人には購入を勧めるようにするべきだと思うが、これらにどう対処しているのか。

答 払い下げ申請が出された場合は、当該赤線が将来にわたり道路として使われることがないとの判断になれば、申請者に払い下げすることになっている。なお、現時点では、町から購入を勧めることはしていない。

問 新高前田住宅の建替えに関するアンケート調査の結果はどうであったか。建替えにより家賃が高くなるなどの不安を持つ住民も多いと聞くが、どう進めようとしているのか。

答 アンケート調査は、取りまとめ中である。公営住宅の整備に当たっては、何よりも町民のニーズに添えていかなければならないので、十分意見を聞きながら進めていく。

問 しずくいし産業再生戦略会議は、当町の産業振興策を打ち出す会議として期待が高いが、どのような取組をするのか。

答 農業や観光関係者などによる会議を立ち上げ、当町の基幹産業である農業と観光について、独自の振興策を早目にまとめたい。特に、当町の農業が持つさまざまな経営資源が十分に活かされるよう総合的な戦略の立案に取り組む。

保健・福祉

問 「^な菜のテクノロジープロジェクト」の全体の流れは、どうなっているのか。また、全体の調整や菜の花栽培、加工品の販売は、どこが行うのか。

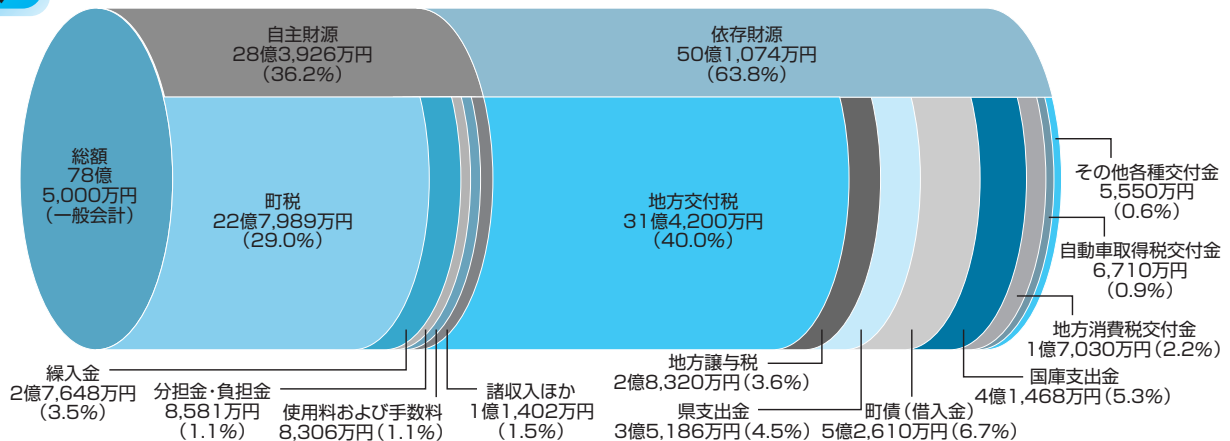
答 この事業は、転作田等に菜の花を栽培し、この菜の花から福祉作業所で「菜種油」を搾油し、製品化して販売していくという多面的な展開を図る事業である。全体調整は、経営推進課が行うが、加工品の販売については、（株）しずくいしが行い、売り上げの中から搾油工賃や菜種代金を支払うようにする。菜の花栽培は、コテージむらに加え、稲作農家にも輪作として転作田に種まきしてもらう予定である。



5 haの菜の花畑が美しい南畑のコテージむら（昨年の様子）

数字で見る予算 一般会計

歳入の内訳



問

ごみの焼却を滝沢村に委託しているが、当町のごみ減量化にともない、「先行きが心配なので将来的には一部事務組合をつくる方向」と、滝沢村議会で村長の答弁があったと、報道されたが当町の考えは。

答

委託料決定の際、一部事務組合でいくべきであろうと思っていたが、委託料1トン当たり2万8千円ということで決定した。町民が減量に努力をしたところ、報道によると一部事務組合というのはいかなものかと驚いている。将来的には盛岡広域圏でのごみ処理計画の中で連携していくべきと思う。



町の一般廃棄物を処理している滝沢村清掃センター

農政・商工

問

当町が直売所を設置するということになっているが、近隣町村も同じような直売所の計画があるようだ。

南部営農経済センター管内に農協直売所、(株)しずくいし直売所を作ることはいかなものか。

答

本来であれば農協が地産地消の中でやるのが一番理想的だ。当町は道の駅の産直施設へ100人ぐらいの組合員が入っていることから、生産者や農協との連携を図りながら進めていく。

問

農業指導センターの指令塔はだれか。また、成果の確認をしているのか。

答

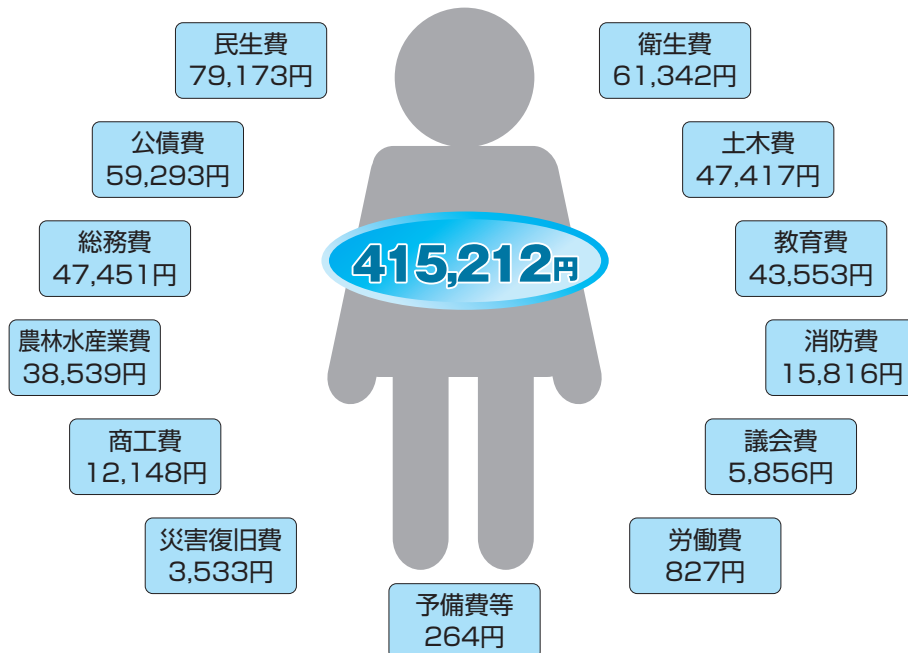
農林課長が所長である。営農支援センター、経営改善支援センター等あり4名の指導員で一生懸命頑張っている。特に品目横断の関係で加入促進を図っているところである。

町民 一人あたりの 金額

平成20年3月末
人口18,906人で試算

ワンポイント解説

民生費…主に高齢者、障害者、子どもの福祉に使うお金
公債費…町債（借金）返済に充てる経費
商工費…町内の商工業の支援や観光振興などに使うお金
災害復旧費…昨年発生した災害の復旧作業に使うお金
労働費…雇用対策や勤労者の支援に使うお金
衛生費…ごみ処理や母子保健、検診などに使うお金



問 農地のあっせんに出ている面積および価額はいくらか。成立しているか説明を願いたい。また賃貸料はいくらか。

答 あっせんは2件あったが成立はしていない。10アール当たり75万円前後であっせんしたが2件とも成立していない。最近60万円ぐらいで取引されていると聞いている。賃貸料についてはAクラス20,000円、Bクラス1万8,000円、Cクラス1万6,000円、Dクラス1万4,000円となっている。

問 銀河ステーション直売所の整備がらみで、駅の観光案内はなくなるのか。また、NPOが他に移ると、電車利用者のあねっこバス利用が不便にならないか。

答 観光案内所は1階へ。また、観光交流センター計画のため、1階のNPOは町の中心部の「ぺこっと」へ移転することを考えている。

問 多機能施設が転じて「まちおこしセンター」に6,491万円計上されているが、町が施設を造っても、商店の方々が自主的に立ち上げたものでないと、シャッター通りは解消されないのでは。

答 まちづくり交付金の方が先行するので、行政主導に見えるが、あくまでもTMO商工会が中心になって、多機能施設の機能を継承して検討中である。空き店舗活用も検討中で、商店街の方々の協力を得ながら、元気にぎわいのある通りにしていきたい。



中心市街地活性化への取り組みとしてにぎわう軽トラ市

建設・土木

問 鶯宿地区の公園整備ほか1億4,000万円、この公園の概要は。水害のリスクもあるのでは。

答 建物撤去跡地等を整備して、水辺公園とし、安全を確保しながら階段で降りられ、高齢者、車椅子の方は、上の広場から景色を眺められるようにする。また、足湯も設置する予定である。



公園のイメージを話し合うワークショップの様子

教育・文化

問 中央公民館舞台照明設備借り上げ料、合計1億8,631万7千円は、厳しい財政のおり、緊急性があるのか、根拠は何か。また、照明器具は定価の50%以下で入手できるはず。入札は。

答 耐用年数15年に対し20年経過している。執行にはメーカー選定をし、リースの入札をする。現在見積り段階で、約1億8,600万円（258.8万円／月×72ヵ月・リース期間）である。

特別会計

問 町の後期高齢者の人数は。全国でこの制度の中止を求める自治体が520ほどあり、対象者は1,300万人、問題のある制度であると考えているがどうか。

答 当町の対象人数は2,725名。すべていい制度とは思ってない。運営で支障が出てくれば町村会等を通じて働きかけていく。

総括質問

問 今回の予算では、人件費の削減額が大きいが、これは退職者が多く、人数減などによるものと思われる。急に人数が減って、全体の組織運営が心配されるが、どうか。

答 定員管理計画を立てて、基本的には退職者の8割以内の採用ということにしているが、指定管理者制度、アウトソーシング等も加え、業務に支障のない体制を取っていくこととしている。必要な部署には増やしていくこともあり、今は、計画的に定員管理計画の中で進めている。



平成20年第1回定例会最終日に退職のあいさつをする
木村英彦前雫石診療所長

常任委員会●活動報告

調査実施日／平成20年 3 月 5 日
調査項目／
町営春木場住宅の新築現地調査

合同

3月5日総務、教育民生、産業建設の3常任委員会は、町営春木場住宅の現地調査を行いました。昨年秋から新築工事が行われていた同住宅は、木造2階建て長屋タイプ6棟が完成。1戸当たりの床面積は、78.25㎡（23.7坪）で全戸バリアフリーが施されています。事業費総額は、約1億5,760万円でした。4月から入居が開始され、家賃は一般入居の方が、2万8,300円から4万6,800円まで、再入居の場合は、6,000円から7,700円までと所得に応じて規定されていることなどの説明を町担当者から受けました。



完成した春木場住宅を視察する委員

調査実施日／平成20年2月27日、
3月5日
調査項目／現地調査、所管事務調査

総務

総務常任委員会（大村昭東委員長）は、2月27日、教育民生常任委員と合同でケッパレランド駐車場の完成状況や町歴史民俗資料館、JR雫石駅南口、町誘致企業木材加工工場の建設状況についてそれぞれ現地調査を行いました。

また、3月5日には、所管事務調査を協議したほか、閉会中の継続調査活動2件についても決定しました。



所管課の説明を受けながら調査活動を協議

調査実施日／平成20年 2 月27日、
3 月 5 日
調査項目／現地調査、所管事務調査

教育民生

教育民生常任委員会（横欠君夫委員長）は、前記の総務常任委員と合同で現地調査を開催しました。

また、3月5日所管事務調査を行い、七ツ森保育所への入所希望が多いことや学童保育への期待が大きく、人数も増えている状況などを確認しました。このほか、閉会中の事務調査として医療施設と福祉施設の充実を調査していくこととし、併せて自立に向けて取り組む福祉施設「かし和の郷」の状況についても視察する計画としました。



雫石町歴史民俗資料館を現地調査する委員

調査実施日／平成20年 2 月26日、
3 月 5 日、3 月12日
調査項目／所管事務調査、請願審査

産業建設

産業建設常任委員会（坊屋鋪俊一委員長）は、2月26日地産地消に係る加工工場および店舗について現地調査を行いました。盛岡市と滝沢村にある食材加工工場は、それぞれ寿司飯などの炊飯米や地元産のカット野菜の製造販売を手掛けており、今後ますます地元産の食材を使っていきたいとの説明を受けました。さらに、滝沢村にある大型スーパーでは、消費者が求める安全、安心な食品を提供する観点から、生産者の見える地場産品の販売を推進していることの話があり、当町の地産地消を考えていく上では大いに参考となるものでした。

3月5日には、合同委員会終了後、継続審査となっていた2件の請願について、いずれも採択することに決定しました。また、3月12日には、新たに付託となった請願1件を審査し、意見書を国に提出することで意見が一致し、採択することに決定しました。



地産地消に係る食材加工について説明を受ける委員



質問者
上野の三四二議員

市街地活性化施設、いつ、誰が

町長／空き店舗、公設民営で

上野議員 町商工会で検討してきた、まちづくり会社や多機能複合施設を断念し、これに代えて（仮称）まちおこしセンター、（仮称）観光交流センターを計画するというが、いつ、誰が主体となってやるのか。運営はどうするか、センターの機能はどのようなものか。

町長 （仮称）まちおこしセンターは平成20年度に空き店舗と用地を取得し、地場特産の研究、伝統工芸や芸能伝承、町内外の交流、集客施設として、町が平成21年度に整備する。（仮称）観光交流センターは、銀河ステーション内に駅ネットワークを活用した観光情報の提供や、特産品の展示販売、町の総合情報の受発信の拠点機能施設として、町が平成21年度設計、同22年度に整備する計画である。運営方法は、商工会が検討しており、今年度末までに内容提示することになっている。

農協合併と地域農業の課題整理は

上野議員 岩手北部農協の合併は、組合員農業者の理解が得られていないのではないかと。

農業再構築と振興には、行政と農協の緊密な連携が必要である。農業の課題を整理し農業者支援をどう進めるか。

町長 しずくいし産業再生戦略会議を設置し、多くの意見を聞いて農業振興につとめる。農協の南部地域営農経済センターと一体となって進める必要があり、そのためには農協のセンター機能、権限を強化するよう要請したい。

御所地区の道路改良、上下水道整備の遅れなぜ

上野議員 道路と上下水道の整備状況はどうか。御所地区の下水道は先発地区より35年も遅れている。また県営鶯宿幹線下水道が遅れている理由は何か。

町長 町道840.7kmのうち道路改革率63.7%、舗装率50.4%である。生活関連道路の要望カ所91カ所あり、優先道を設定し計画的に進めたい。

水道は整備率95.7%である。未普及地域を解消する計画である。

下水道は、公共、農業集落排水、浄化槽設置事業を併せて68.8%の整備率であるが、計画地区以外は市町村型の浄化槽整備を検討している。鶯宿幹線下水道は県の財政事情から3年ほど遅れる申し出があった。沿線整備は鶯宿幹線に合わせて進めたい。

一般質問

質問者／
いとうてつお
伊藤哲夫 議員



後期高齢者医療制度の見解は

町長／円滑な導入に努めたい

伊藤議員 4月にスタートする「後期高齢者医療制度」は、収入がない後期高齢者に対し保険料を年金から徴収することとなっている。この制度は本当に命と健康を守るシステムなのか疑問である。

当局の見解を伺いたい。

町長 この制度は、平成20年4月から75歳以上の高齢者と一定の障害があると認定された65歳以上の方々を対象に施行され、運営は岩手県後期高齢者医療広域連合が行う。

岩手県の一人当たりの平均的な保険料は、年額で5万8,400円、月額4,867円であり、全国平均の月額6,200円に比べ1,333円低額となっている。後期高齢者医療制度は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づき実施するものであり、今後予想される超高齢社会を迎えるに当たり、維持しなければならない。

本町は予算措置により、後期高齢者健康診査を従来どおり自己負担なしで受けられるようにし、高齢者の方々の健康維持、増進を図りながら医療費増加の抑制に努め、広域連合と連携しながら円滑な導入を図りたい。

伊藤議員 広域連合の運営は、各自治体の意見が反映されない状況にあり、見直す必要があると考える。

町長 関係市町村の意見を聴取しながら進め、必要があれば規約の改正等について検討をし、運営することとなっており、郡内の町村の意向は反映されると考えている。

また、後期高齢者医療の実態に即した要望等については、町村会、町村議長会を通じ意見が反映されるように努めていきたい。幸い私も町村会の理事を務めており、さまざまな意見を聞きながら実態を訴えていきたいと考えている。



後期高齢者医療制度を紹介したチラシと保険証（見本）

こ
こ
が
聞
き
た
い
・
一
般
質
問



質問者
おおむらしょうどう
大村昭東 議員

農業再生・農協合併にどう対応しているか

町長／南部宮農経済センターの強化要請

大村議員 米価下落、原油や飼料の高騰、大型農協合併などで、農家は悲惨な現状にあるが、農業指導センターの人心一新を図るなどの対応が必要でないか。

町長 社会情勢の変化に柔軟に対応する。

大村議員 5月1日発足する新農協の各市町村の農業振興策をどう見ているか。

町長 南部宮農経済センターの強化を要請する。

大村議員 農協合併によって市町村ごとの振興策は、それぞれが独自に考えるような方向に進むとおもわれることから、町農業振興協議会と農業指導センターを合体させ、町独自の方策を考えるべきでないか。

町長 (仮称) しずくいし産業再生戦略会議を設置し、多様な面から方策を考えたい。

大村議員 農業指導センターのあり方をどう考えているか。スタッフをどういう基準で委嘱しているか。

農林課長 実態を把握し改善に努めたい。

大村議員 本町の介護の課題にどう対応しているか。

町長 嘱託介護支援専門員を雇用し、包活支援センターの人的体制の強化、ディサービス通所系サービス事業所の参入を誘導することなどで課題解決を図る。

大村議員 町の財源と、東京など町外を含めた一般からの寄付金で福祉・介護のまちづくり基金の設置とか、福祉介護の互助制度や共済制度の導入をどう考えるか。

福祉課長 現行さまざまな制度があるので、そのような考えは持っていない。

大村議員 第二期分権改革、超高齢化社会を乗り切るための人材育成をどう進めているか。

町長 職員研修の充実、職場改善運動を通しての意識改革や、専門的知識、技能を備えた職員採用に配慮する。

大村議員 公務員精神、公僕魂を町職員はどう意識しているか。

総務課長 いろいろなテーマを与えてグループ討議で知識偏重にならないよう努めている。

大村議員 住民目線、生活者視点は全職員に浸透しているか。

町長 研修等を通じてさらなる浸透に努める。

一般質問

質問者／
いしがめ 石亀 みつぎ 議員



学校図書館の充実を

教育長／十分な協議と標準冊数の達成

石亀議員 総合的な学習の時間において、多様な教育活動を展開していくため学校図書館の充実が必要とされ、国は、平成19年度から「新学校図書館整備5か年計画」を進めており、図書整備費が増額配分されている。学校図書館の図書標準を達成するため、図書整備が必要と考えるが見解はどうか。

教育長 本を読むことの大切さは、教育上の観点ではもとより、人生においても極めて重要なものであることは論をまたないところであり、町としても子どもたちの読書環境の整備、学校図書館の充実については十分検討し進めている。

司書教諭の配置状況については、学校図書館法で義務付けている12学級以上の零石小学校と中学校に各1名配置している。発令がない小学校は、図書館教育担当者を校務分掌に位置付けて読書活動の指導と推進、学校図書館の整備、充実に当たっている。

各学校の蔵書冊数の充足状況については、平成18年度、町内小学校10校の平均充足率

75.5%、中学校93.9%で小中学校とも全国平均を上回っているが、学校間のバラツキがあり、蔵書の整備、充実計画については十分な協議を行い標準冊数の達成を考えている。

学校給食費の未納対策は

石亀議員 学校給食費の食材費は保護者負担と定められているが、未納金額と対策をどう考えているか。

教育長 平成18年度では、小学校が1校の5人で未納額は18万円、中学校27人の90万9,000円。原因は保護者の経済的問題と、保護者としての責任感と規範意識の問題と判断している。教育委員会としては、準要保護者に支給される就学援助費から確実に納入されるよう支援している。



新校舎安庭小学校の図書館で読書する児童たち

こ
こ
が
聞
き
た
い
・
一
般
質
問



質問者
かわぐちかずお
川口一男議員

地域公民館に期待するものは

町長／協働のまちづくりの原動力に

川口議員 地域公民館が町内各行政区に、70カ所あるが、町当局として期待するものは何か。

町長 地域コミュニティの核としての機能を果たしている。地域公民館は、伝承文化の継承、生活の中で教養の向上、地域課題の話し合い、親睦と融和を図る場とし、協働のまちづくりの原動力となっていきたい。

川口議員 地域公民館と町立の地区公民館との連携を、町当局は組織的にどのように考えているか。

教育長 社会体育行事等の際、地域公民館にさまざまな形で協力をいただいている。20年度以降、教育振興運動を積極的に展開していく計画である。地域に最も密着した組織である地域公民館、地区公民館は行政と地域住民の事業推進のけん引車として、連携を深めていく必要があるものと考えている。

川口議員 4年ほど前から公民館連絡協議会への研修費補助が打ち切りとなったが、その経過は何か。

町長 地域公民館は、相当自立できている。予算査定で補助金等の見直しがあったと思うが、研修内容で絶対必要であるということであれば検討したい。

公共工事と地元活用は

川口議員 昨年9月17日の大雨災害の際、他町村の建設業者から支援があったか。また、町内業者の何社から支援していただいたのか。

町長 昨年の大雨災害の時は町内業者に緊急要請し9社から支援していただき、大変感謝している。他町村の業者には緊急要請はしていない。

川口議員 町内業者を育成しなければ災害時の緊急対応ができないと思われるが町長の考えを伺いたい。

町長 国、県も総合入札方式という形で、貢献度や地元優先を考えた選考を検討している。零石方式の総合入札を検討していきたい。



豪雨災害の現場を調査する議員（昨年9月）

一般質問

質問者／
さかしたえいいち
坂下栄一 議員



福祉作業所、自立できる収入確保を

町長／引き続き支援を強化する

坂下議員 福祉作業所で働く一人一人が将来においても自立できる収入確保が大事と思う。「かし和の郷」に菜種油の搾油プラントを整備し、安定的な就労機会の確保と工賃の向上を図るとしているが、どの程度の収入増が見込まれるか。

町長 現在、1人当たり月平均で約1万円。県内の同様の施設と比べると5千円下回っている。今回の事業により受託料として100万円前後を見込んでおり、現在の工賃支給額240万円に対し約42%増となる。今後とも収入確保に努めて支援していく。

坂下議員 旅館や民宿等で保有する送迎バスをスクールバスとして活用する運行構想に実現のめどがついたとしているが、関係者の協力度合いはどうか。

町長 昨年11月の調査で、町内19の事業者から協力が可能という返事がある。今後、協力の意志を示している事業者への条件やサービス水準の設定等を検討し運行計画を策定する。

坂下議員 農業振興について、本年1月に町内にプロジェクトを組織し米を中心にした農業の活性化と地域経済への波及効果を具現化するための戦略の検討をしているとしているが、これまでのところどのような検討内容になっているか。

町長 課題として、生産者と消費者を結ぶコーディネーター機能の不足と零石の農業をアピールするキャッチフレーズの設定が出ている。また、各種計画書に書かれている関係機関の役割が果たされることが重要。そのためのシンクタンクの機能を果たす仕組みづくりが必要と考えている。

坂下議員 財政健全化計画には、保育所と自校方式の学校給食の統廃合を検討し民間委託等により職員を削減するとあるが、そのとおりか。

町長 私の認識では、新たな食育という観点から学校給食は自校方式で進めたい。保育所については、いずれ民間に移管し指定管理者で対応したい。



福祉作業所「かし和の郷」10周年式典（昨年7月）

こ
こ
が
聞
き
た
い
・
一
般
質
問



質問者
田中栄一 議員
たなか えいいち

平泉世界遺産登録と本町観光の振興策は

町長／首都圏で誘客促進活動を展開

田中議員 観光は文化を発信し、経済や教育に活力を与え、国力と国民の国際性を高めるものであり、まさに国の将来、地域の未来を切り開く有効な手段である。特に今年は平泉の世界文化遺産への登録が期待されており、本県への観光客の大幅な増加が見込まれる。

この機会にわが町の観光振興にどのように結びつけるか、具体的な取り組みを伺う。

町長 平泉の世界文化遺産の登録が見込まれており、今年度の取り組みが大変重要であると考えている。県とＪＲ東日本などと連携して実施する「いわて、平泉観光キャンペーン」に参画し、わが町の観光資源を首都圏などに宣伝紹介するなど、誘客促進活動を展開したい。

観光協会の法人化は

田中議員 観光振興のためには、雫石町観光協会の充実・強化を図る必要がある。そこで法人格の取得のため、助成（出資）する考えはないか。

町長 協会の組織強化は必要なものと考えており、社会的信用のある団体への移行を指導している。法人格の形態など観光協会の方針をみながら支援したい。

雫石町観光ビジョンは

田中議員 平成18年3月に雫石町観光ビジョンが策定され、町の観光振興の方向性が示されたが、おおむね5年間と設定された。その後の進捗状況と着手率はどうか。

町長 おおむね順調に取り組みがなされたものであると考えている。今後とも目標達成に向け産業間の連携のもと、各事業を展開していく。

奥産道の活用は

田中議員 自然破壊の問題により、奥産道の工事が中断されたが、その後登山道への連絡歩道ができ、雫石から八幡平までの通行が可能となった。このコースは、四季折々の美しい景観を見ることができる。新しい観光ルートとして活用を考える必要があるのではないか。

町長 昨年6月から連絡歩道が供用され、昨年は約3,200人が利用した。県では、モニタリング調査を実施し、総合評価を行って、次期活用計画を検討している。その経過を見ながら観光振興の活用を考える。



世界遺産登録が見込まれる平泉

一般質問



質問者／
かとう ますみ
加藤真純 議員

住民のための公害防止協定を

町長／町内事業者と締結を進める

加藤議員 誘致企業との公害防止協定は、国の法通りなら結ぶ意味がない。地域住民の意見を十分踏まえて、健康被害の保護はもちろんのこと、農業と観光の町にふさわしい協定を。

町長 協定は、公害関係諸法令を補完するものとして、地域の実態に即応したきめ細かい指導ができることから、今後も地域住民の生活環境を守っていく有効な手段として、誘致企業はもとより町内事業者との締結を実施したい。今回企業には法の基準以上の現有における技術で可能な限り、自主的、積極的な環境への取り組みを求めている。

加藤議員 川井林業のボイラーは、木片を燃やすのに硫黄酸化物（SOx）の実測値3ppm、計画値82ppmとなっている。木片の硫黄分は極わずかであり、滝沢焼却炉でさえも50ppmの協定値である。木片以外のものを燃やす計画があるのか。

商工観光課長 木材以外は燃料に使うことはないと聞いている。

加藤議員 硫黄酸化物排出基準で「K値」という地域別に定める定数があり、昭和51年度から見直されていない。四日市市では1.17、仙台では7、青森、山形、盛岡などは都市部最下位の14.5、さらに、雫石は「その他」に分類され17.5でもっとも緩い。きれいなところは汚れるまでほっておけ式の「無法地帯」に等しいもの。（法基準通りの場合）「K値17.5」の日本で最低の規制値で誘致企業と協定することになるが、これらに対する見解は。

環境対策課長 今年度の環境基本計画作成時に取上げたい。

九十九沢の大伸工業自社最終処分場の公害防止協定の進捗は

加藤議員 約1年前、一般質問の答弁は、今努力中だったが、その後は。

町長 早期に結べるよう、直接わたしが出向くか来ていただくとか、話し合いをする必要もあるのかな、と今感じているところですので、しばらく猶予を。

個人情報保護条例に罰則規定を

加藤議員 職員のみならず、町長、議会もふくめ、抑止と厳格な条例の運用がなされるよう、地方公務員守秘義務に上乘せして、罰則規定が必要な時期では。

町長 内容を検討した上で条例改訂に向けて取り組んでいく。

農畜産物直売所に係る駅舎改造は

加藤議員 町民共有の財産でもある駅舎の改造は、町民にもっと情報を公開し、意見を十分反映させながら協働で進めるべきでは。

町長 1、2月の広報等で周知を図った。今後も同様、十分説明をしながら進める。

加藤議員 昨年11月2日議員全員協議会で説明、同月14日の新聞に直売所決定と発表された。これを見た約10人の住民から、議会はいつ議決したかと問い合わせがあった。いつどこで決まったと考えるか。

町長 12月の補正で一部予算を計上。最終的には予算の議決の決定だと思っている。

加藤議員 この直売所のニーズはどれほどか。何軒ぐらいあるのか。

農林課長 アンケートでは60名ほど参加したいという農家がある。道の駅（※）しずくいしで、鶯宿方面のホテル・旅館5～6軒で試験的に取引している段階。

（注1：硫黄酸化物は呼吸器疾患の原因となる物質。K値は少ないほど規制が厳しい。）



質問者
猿子恵久さるこしげひさ議員

経営安定対策特認制度の方針は

町長／加入誘導を直接的に働きかけていく

猿子議員 国が品目横断的経営安定対策の見直しを行い、経営安定対策特認制度が設けられ、面積要件の緩和が市町村の意見を基に認められることとなった。このことを受け、4月からの加入申請が始まるに当たり、町として、今後の方針と対策をどのように考えているか。

町長 集落段階で策定している集落水田農業ビジョンにおける担い手リストについて点検・見直しを行い、経営面積4ha未満で担い手としてふさわしい方を確実に担い手リストに掲載していただき、その上で既に地域水田農業ビジョンに担い手として位置付けられている、経営面積4ha未満の認定農業者、また、担い手であっても認定農業となっていない方をリストアップし、戸別訪問を行うなど、対策への加入誘導を直接的に働きかけていく。

施政方針における施策重点事業は

猿子議員 地域コミュニティ形成推進事業は、町内行政区の半数以上が設立されようとしているが、現在までの事業評価と問題点は。

町長 政策評価会議において行った内部評価では、地域コミュニティ団体の組織は順調に増えている状況であり、おおむね順調との評価をしたところであり、さらなる事業の改善に努める。

事業推進上の問題点として、核となる地域リーダーの不在、行政区によっては、制度を十分理解していない所もあり、これまで以上に事業のPR活動を行い、コミュニティ組織の設立や活動上の支援等、きめ細かな対応を行い、事業を推進していく。

猿子議員 特色ある学校づくり推進事業の取り組みは、地域の良さを知る、誇りを持てる児童生徒の育成を、具体的にどのように取り組もうとしているのか。

町長 当町において、郷土に誇りを持てる子どもを育むという目標を、より明確にさせる方向で取組んでいるが本来の目標である郷土に誇りを持てる子どもを育てるという点では、幅広く地域を見渡し、地元の歴史をさらに掘り下げて学ぶ必要があると考えている。

そうした点では地域の人々にもっと学校に来ていただく環境づくりとその方々から学べるメニューづくりが重要であり、近年地域の人々との交流に取り組む学校も増えてきている。各学校では、地域の方々を巻き込んだ活動を平成20年度も継続して行う、としてのるが、学校を訪れ子どもたちと交流できるよう、昔話や地域の人々の昔の暮らしの様子等のお話を聴く会、といった地元の歴史を学ぶ企画なども、各学校に提案していく。

一般質問

質問者／
すぎさわとしあき
杉澤敏明 議員



新年度の財政収支は

町長／約 6 億円の黒字見込む

杉澤議員 現下の厳しい地方財政の中で、当町の平成20年度予算案におけるプライマリーバランス（※）など財政収支に対する基本的考え方はどのようなものか。

町長 町債発行の見込額（借入見込額）は、5億2,610万円であり、町債の償還見込額（返済見込額）は、11億2,098万円となる見込みであることから、プライマリーバランスは、歳入73億2,390万円、歳出67億2,902万円となり、5億9,488万円の黒字の予算案としている。また、平成20年度末の町債残高は、前年度比約4億4,405万円減の73億5,890万円と見込んでいる。予算編成に当たっては、各事業の創意工夫を図るとともに町民ニーズを的確に把握し、限られた財源を計画的に、重点的かつ効率的に活用し、総合的な行財政運営が図れるよう取り組んだところである。

杉澤議員 健全な財政運営をして、町民の信頼を得ていくようにしていただきたい。

町長 財政の健全化、効率的な行政運営を原則にして進めていく。

策を示してもらいたい。

また、この産直施設（（仮称）しずくいし農林産物直売所）が整備される雫石銀河ステーションには、観光推進の機能も必要と思うが、整備計画はどうなっているのか。

町長 今後、具体的な運営に当たっては、実需者であるホテル、旅館等の宿泊施設や商店、生産者、農業者と商工観光課、農林課、関係機関・団体が連携し、農観一体となった推進をしていく。

また、観光推進の機能も必要であることから、平成22年度には、（仮称）観光交流センターを整備する計画である。

※基礎的な財政収支を示す。歳入総額から地方債発行収入を差し引いた金額と歳出総額から地方債元利払いを差し引いた金額のバランス

地産地消の推進は

杉澤議員 地産地消の推進に当たっては、農業と商工、観光が連携し、一体となった取り組みをすることが必要であると思うが、今後の具体的な連携方



大型店の地産地消の取り組みについて調査する産業建設常任委員

こ
こ
が
間
き
た
い
一
般
質
問



質問者／
むらたあつお
村田厚生
議員

地域コミュニティの推進策は

町長／地域からの取り組み尊重

村田議員 平成18年度から地域コミュニティの推進事業に取り組み、74の行政区のうち31行政区で自治会組織が結成されている状況と聞いている。しかし、最近加入率が鈍くなってきているように感じるが、今後の加入推進策をどう考えているか。

町長 74行政区のうち42%に当たる31のコミュニティ組織が設立され、各地域でコミュニティ活動を行っていたきながら「結いっこ精神」をはぐくんでいるところである。平成20年度、新たに12行政区から本事業に取り組む予定の回答があり、43のコミュニティ組織が活動していくと想定している。本事業への参加を呼びかける上で、最も大切なことは、行政からの事業の押しつけ感を持たせず、これまで実施してきた広報誌などを通じた事業の周知・説明会を行い、本事業が掲げる平成22年度までの町全域の参加という目標の達成に努めていきたい。

林業振興は

村田議員 大型製材工場の建設工事が開始された。本町は、県内でも有数な森林資源に恵まれており、広大な成長林がある。環境に配慮しつつ、これらを有益に活用していくため、新工場への特にも公有林からの計画的間伐を進め、原木供給、立木販売を行い、本町独自の林業振興施策を図るべきと考えるがどうか。

町長 町有林の樹齢は、そのほとんどが間伐また伐採適期を迎える山林となっている。これまでも森林施業計画に基づき、計画的に間伐を実施してきているが、平成20年度に町有林の状況を調査し、改めて施業計画を立て、それに基づき順次実施していきたい。なお、製材工場への原木供給については、その取り扱い数量が多いことから、今回の立地を絶好の機会ととらえ、町有林をはじめ、民有林からの積極的な間伐の促進を行い、工場への原木供給、販売することが本町の林業振興や活性化につながっていると思っている。



コミュニティ事業に取り組む団体へ交付される自主防災ののぼり旗

一般質問

質問者／
まえ た たか お
前田隆雄 議員



畜産関係への原油価格高騰策は

町長／対策会議開催し必要な措置講じたい

前田議員 飼料・原油価格高騰による畜産・酪農・園芸経営が危機的状況にあると考えるがその対策について伺いたい。

町長 配合飼料については価格安定基金からの補てんが発動となり、園芸関係では全農が暖房用の燃料に対し、1ℓ5円の補てんをした。

現在、盛岡地方振興局が主催し、管内の市町村、農協等による対策会議を開催し、県内外の取り組み状況等、情報収集を行っており、その中で有効な対策を検討し、必要な措置を。

地域水田農業活性化緊急対策は

前田議員 長期生産調整実施契約と非主食用米低コスト生産技術確立試験契約に組み組めば10a当たり5万円を交付するという地域水田農業活性化緊急対策への取り組み状況はどのようになっているか。

町長 希望者は、40名21haで、1.5%の面積増であった。

当町が、生産目標数量を達成していることから、緊急対策による大幅な生産調整拡大には至らなかった。

水田農業構造改革交付金（産地づくり交付金）の継続は

前田議員 産地づくり交付金が、平成22年度以降は白紙の状態であり、平成22年

度以降もこの政策が継続するよう県、国に、強く要請していくべきと考える。

町長 産地づくり交付金は農業者の生産活動のよりどころとなっている。

平成22年度以降も引き続き実施されるようあらゆる機会を通じて、国・県に対し強力に要請していく。

畜産振興策は

前田議員 飼料価格の高騰における畜産の経営安定を図るために、家畜の粗飼料として必要な稲わらの収集事業を、展開してはどうか。

町長 盛岡地方農業農村振興協議会が耕畜連携の推進を図っているのも、その取り組み状況など情報収集を行い、農家・農協各部会等へ情報提供をしていく。

稲わら収集事業については、今しばらく動向を見ながら検討したい。



農業振興に係る建議書を町に提出する
農業委員会（昨年12月）

こ
こ
が
聞
き
た
い
・
一
般
質
問



皆さんの声を聞きました



かわむら とおる
川村 昶さん
(65歳・籬野行政区)

町の変革 議会から

この町、雫石町へ来て、早や13年目になり、地元の皆さまに支えられ、毎日楽しく過ごしております。

思えば、12年前に議会を2回ほど、傍聴した時は穏やかなれ合いの議会だと思い、少々物足りなさを感じたものでした。

でも、ここ4～5年前から、町民の方々の声が「雫石がもっとよくなるように」と一生懸命語る方が多くなってきた事が、今まさに「雫石が変わる時」と感じました。

今回も前回と同じかなと思いながら町議会を傍聴したところ、議員さん、皆様方全員、質問する意識を強く持ったことが大変うれしく思い、胸を熱くしました。最後に一言いえば議会の答弁する側の役場の職員の方々、声をもっと多く発してほしいと思います。

「議会が変われば 町も変わります」



ゆう き はるお
遊亀 晴夫さん
(74歳・桧沢行政区)

3月議会を 傍聴して感じたこと

私は、先の3月定例会を数日傍聴しました。「観光と農業」の町を標ぼうする当町の議会における取り組みはどうか関心があったからです。熱心に議論される姿は評価しますが、私が思うあるべき将来像の部分は少なかったと感じました。ここで、私見ですが、私の考える観光と農業が結びついた施策のポイントを述べたいと思います。

1点目は、観光に欠かせない土産品の製造や販売をどの組織が担っていくかが今後一番重要と考えます。2点目は、食の匠をもっとPRできないか。3点目は、町内の農産物や山菜を加工する乾燥機や急速冷凍機、さらにレトルト加工を活用し、旬の時期に採取し保存後流通するシステムを確立していく。4点目は、大都市で求める岩手の農産物や山菜、日本ハープなどを提供できる町「雫石」をもっと宣伝する。5点目は、東京などの大消費地に産直店を開設し、販売部分を強化していく。などの点について議論を深めてほしいと思います。雫石の自然と風土に魅了されて移住した私にとって、さらにすばらしいまちづくりを進めてほしいと願っています。



ふくざき まき こ
福崎万紀子さん
(51歳・長根行政区)

初めて議会を 傍聴して

今回初めて、定例議会を傍聴しました。私にとって議会は、かけ離れた存在で投票には行きますが、その後当選された議員の方々がどのように町政に取り組まれているのか、あまり気に留めることもありませんでした。

きっかけがあり傍聴してみたいと考え、思い切って出かけました。議場に入ってみて緊張感漂う雰囲気、場違いな所に来てしまったと思いました。議員の方々の真剣に議論している様子から、この町をよくしたいという気持ちが伝わってきました。傍聴席には、毎回来られていると思われる方や、熱心にメモを取っている方がおりましたが、他にほんの数人しかおらず、傍聴する人の少ないことを実感しました。私たち一人一人が、もっと町政に関心を持つことが大事だと感じました。そしてたくさんの人が、気軽に傍聴できるようになればと思います。

ふるさとへの便り— 31

在京雫石町友会会員 柿木 良三さん



ふるさと の山に向 ひて

♪ どこかに故郷の香をの～せ～て～ 入る列車のなつかしさ～ ♪ 皆様ご存じの井沢八郎「ああ上野駅」の一節。故郷を後にし、もう38年の歳月がたちました。

生家は下町にあり、祖父は下寺近くで雑貨商を営み、父は養子で公務員の身でしたので、私は、4歳で雫石を後にし、大釜、平館、好摩を両親と共に転々としてしました。雫石にあまりいることはありませんでしたが、4歳年上の長兄はずっと雫石の祖父のところにいました。次兄と三男の私は、夏休みや冬休みに、両親の実家が農家ということもあり、父が生まれた長山や母の実家の下久保に「農繁期の手伝い」という名目で連れて行かれました。ろくな手伝いはできませんでしたが、時には学校を休んで行ったことも懐かしく思い出されます。

下寺のそばに住んでいた関係で、本堂前の広場でよく遊んだものでした。ある時、何の理由かは忘れてしまいましたが、先代のご住職に悪たれをついて「ガンジャガ」の方まで追いかけられたことがありました。また、駅前の新興製材所の貯木池で木材に乗って遊んでいた時、池に落ちおぼれそうになりました。もし、

一緒に友達に助けられなかったら、今ごろどうなっていたかわかりません。そんな悪戯好きな私を神様は、雫石に長いこと置いていたらはたしてどんな悪戯をするか心配で、長く雫石に留まることを許さなかったのだらうと思っていますしだいです。

故郷の思い出としてこんなこともありました。昔、上司が東北に旅行した際、雫石も通るとのことでしたので、私は、冗談気分で「実家にも寄ってください」と話したところ、本当に寄られたそうです。母親は驚くやびっくりするやらで大変だったそうですが、後で上司から「岩手の人の人柄がよく分かったよ」と、言ってくださいました。その母も今年で80歳を迎え雫石に一人で住んでいます。

—ふるさとへの山に向ひて言ふことなし

ふるさとへの山はありがたきかな—

帰郷する度に雫石の山並み、自然の光景を目にする時、ありがたさがひしひしと伝わってくるこのごろです。



小学校1年生 初めての遠足（前列右端が本人）

柿木良三さんプロフィール

昭和26年生まれ 57歳。篠木小学校、西根第一中学校、盛岡商業高校を昭和45年に卒業、同年三菱銀行（現三菱東京UFJ銀行）に入行。平成13年同行退社、現在三井住友海上火災保険勤務。埼玉県飯能市在住、4男1女に恵まれ現在孫10人、今年11月には11人の予定。趣味は民謡と詩吟。

子どもたちから町議会はどんな仕事をしたり、どんな仕組みになっているのか質問が寄せられることがあります。そこで議会の仕組みについて子どもたちに分かるようにシリーズで解説しています。ご家族で一緒にご覧ください。

かいかい へいかい 開会から閉会まで

議会は町長が招集し、年4回定例会（おおむね3月・6月・9月・12月）を開くことになっています。それ以外に必要に応じて臨時会が開かれます。ここでは、一般的な議会の流れを紹介しします。

- ①開会（議長が宣告します。本会議を開くには議員定数の半数以上の出席が常時必要です）②議案上程（議案には、町長が提出するものと、議員から提出されるものがあります）③提案理由説明（議案について、提出者から提案理由の説明を行います）④質疑・討論（議員が議案や町の仕事について質問を行い、町長などが答弁します）⑤採決（議案などについて、議会としての可否を決めます）⑥閉会（採決の結果は、町長に通知され、町長はこれに基づいて仕事を進めます）

議会の話題を紹介しします

■本誌が県広報コンクールで入選1席

平成19年度岩手県町村議会広報コンクールで、「しずくいし議会だより第63号」が入選1席となりました。平成16年度から4年連続の入選です。

今後とも、議案審議の様子を分かりやすく、速やかに提供しながら、元気なまちづくりの一端になるよう努めてまいりますので、ご協力よろしく願いいたします。

■会議録がインターネットでも

議会の内容を記録した会議録がインターネットからも閲覧できるようになりました。アドレスは

<http://town.shizukuishi.iwate.jp/> です。役場ホームページの「議会事務局」→「町議会会議録」から見るができます。また、これまでどおり図書館でも閲覧できます。

●今号の表紙／62号から本誌の表紙は、「まちの笑顔」シリーズでお届けしています。「笑顔が絶えないまち」を目指して取り組んでいる皆さんの様子を紹介していきます。今回は御明神保育所に通う元気な園児たちの笑顔です。

議会の主な動き 1～4月

- 1月
- 6日 交通指導隊初点検式、消防出初式
 - 14日 町成人式
 - 15日 滝沢村議会村政調査会との合同研修会
 - 19日 裸参り感謝祭
 - 22日 市町村長等トップセミナー（盛岡市）
- 2月
- 3日 第21回町民音楽祭
 - 8日 盛岡市市政調査会研修会
 - 10日 第5回町民劇場
 - 16日 安庭小学校校舎落成記念式典
 - 19日 議会運営委員会
 - 20～21日 全国議会広報研修会（東京都）
 - 22日 県議長会第59回定期総会、2008しずくいし農林業躍進の集い
 - 26日 町国際交流海外派遣事業報告会、産業建設常任委員会
 - 27日 総務常任委員会
- 3月
- 1日 雫石高校卒業式
 - 4日 第1回議会定例会開会
 - 5日 常任委員会、議会運営委員会
 - 6～7日 本会議
 - 10～12日 本会議（一般質問）
 - 13～14日 予算特別委員会
 - 17～18日 〃
 - 15日 第31回町社会福祉大会
 - 17日 雫石中学校卒業式
 - 19日 本会議（議会定例会最終日）
町内小学校卒業式（大村小除き）
 - 20日 大村小学校卒業式
- 4月
- 1日 新年度議長訓示
 - 3日 農業経営者協議会総会
 - 8日 雫石高校、雫石中学校入学式
 - 10日 春の交通安全のぼりロード大作戦

情報公開

●議長交際費執行状況

【議長交際費とは】
議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

【議長交際費内訳（1月～3月）】

月	葬祭費		お祝い、会費	
1	0件	—	3件	1万3千円
2	0件	—	2件	1万円
3	1件	1万円	3件	1万1千円
総計 （1月～3月）	1万円		3万4千円	

編集デスク

東京で開催された全国町村議会広報研修会に、当議会広報委員7人が全員参加しました。いかに多くの人に読んでもらえる広報誌にするかを1泊2日の講義の中で研修しました。自然で鮮やかな写真の活用や、分かりやすい文章表現、多くの広報誌との比較研究、読む側に飽きさせない工夫など、それぞれ十分理解できる内容でしたが、いざ編集となれば非常に難しいもの。しかしながら厳しい地域情勢の中での行財政と議会活動をより分かりやすく、中身を濃いものへと全員で編集努力をし、さらに多くの方にご愛読いただける広報誌づくりを目指していきたいと思ひます。また、少ない時間ではありましたが、全日空の研修センターを視察してきました。この施設は、航空事故を教訓に人間は過ちを犯すものを前提に再発防止に努めるための職員研修をしており、雫石衝突事故の資料も展示されていました。

（編集委員 石山 仁）